

JAPANESE JOURNAL OF PAPER TECHNOLOGY

紙パルプ 技術タイムス

5

May 2025

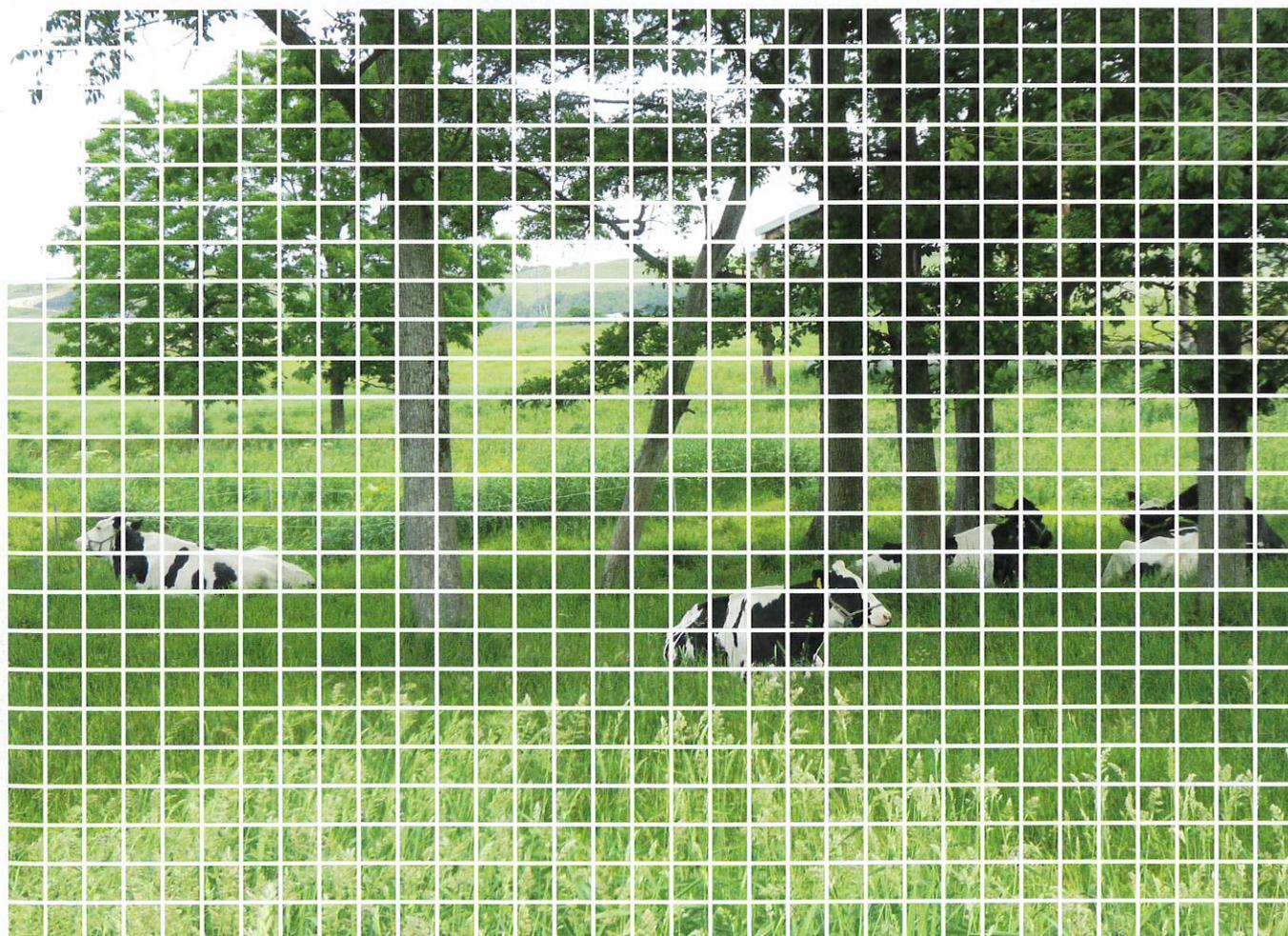
特集 持続的発展目指す静岡・富士地区の製紙産業

特集インタビュー 日本製紙 / 特種東海エコロジー / コアレックス信栄 / 新橋製紙
富士製紙協同組合 / 富士工業技術支援センター

サプライヤーに聞く 斎藤鐵工所 / 長谷川鉄工所

- 紙パ技術をリードする有力企業
- データで見る静岡・四国の紙パルプ ● 産地ニュースダイジェスト
- 紙パ関連企業リスト

- AIを活用した古紙原料の判別に関する研究(Ⅱ)
- 老舗を再生させた三代目がどうしても伝えたい「経営革新」講義



「アトツギ甲子園」の全国大会に出場 メンテナンスで鐵工所技術の発揮を

株齋藤鐵工所 専務取締役
齊藤 雄大氏



— 「齋藤鐵工所」の企業概要とご自身の略歴などをお教え下さい。

齊藤 当社は1919（大正8）年創業の100年以上続く老舗製紙機械メーカーです。富士市の地場産業である製紙業界向けに、紙を「抄く」「加工する」工程で使われる製紙機械の新規導入およびメンテナンスに関し、顧客ニーズに合わせて設計・製作・組立の一貫体制の下で対応できる会社です。

自身の略歴についてご紹介させていただくと、1989（昭和64）年静岡県富士市の生まれで、静岡県立富士高校を経て明治大学商学部で学び、卒業後は「齋藤鐵工所」の経営者になることを見据え、政府系金融機関である株式会社商工組合中央金庫（商工中金）に入社しました。そこでは福岡や東京、静岡など全国各地の中小企業を対象とする法人営業を11年間経験し、その後当社へ入社、現在6代目アトツギとして目指し奮闘しているところです。

●アトツギ甲子園

「紙づくりの未来を守る」で挑戦

— 「アトツギ甲子園」に参戦され関東ブロック大会で優秀賞を受賞、全国大会に出場されたとのことですが。

齊藤 「アトツギ甲子園」というのは経済産業省・中小企業庁が会社の事業承継支援の一環として主催する企画で、

中小企業の後継者が既存の経営資源を活かした新規事業のアイデアを発表し内容を競うピッチイベントです。今年は5回目を迎え全国6ブロックから189名がエントリーし、そのなかから90名が書類選考され、各ブロックの15名が地方大会を戦って上位3名ずつの計18名が全国大会に出場しました。

私は静岡県を含む関東ブロック大会で優秀賞を受賞し、他の受賞者2名とともに2月20日東京・大手町で開催された決勝大会へと進みました。地方および全国大会では4分間のプレゼンと6分間の質疑応答を通じ、「新規性」「実現可能性」「社会性」「経営資源の活用」「熱量・ストーリー」の5つの審査基準により審査員が評価しています。

— 参戦されたのはどのようなきっかけからですか。

齊藤 商工中金に勤めていた頃から「アトツギ甲子園」については知っていましたが、自分には縁遠い催しだと思っていました。それが“家業”に戻って事業継承を真剣に考える立場になり、知人に「出場してみても」と勧められ、また昨年夏に父の齊藤仁会長が亡くなったこともあり、私自身いよいよ次期経営者としての自覚をもって日々頑張らなければならぬとの意志を強くもつようになって、アトツギ甲子園に挑戦させていただくことにしました。昨年の9月に参加者への事前説明会が催された折には、全国の同世代後継者の方たちと顔を合わせる機会となり、さらに刺激を受けプレゼン挑戦への意欲が高まってきました。

— プレゼンの内容などはどのように設定されたのでしょうか。

齊藤 プレゼンのテーマを「日本



齊藤雄大氏の「アトツギ甲子園」全国大会におけるプレゼンテーションの様子



全国大会での登壇前の紹介



会場風景

の紙づくりの未来を守るための新たな
鉄工所業界のビジネスモデル」とし、タ
イトルには『製紙機械メンテナンス集
団が日本の紙づくりの未来を守る!』
を掲げました。地場産業を設備面から
下支えする鉄工所業界のビジネスモデ
ル変革を訴えることが趣旨となってい
ます。内容について関心のある方は、
YouTubeの第5回「アトツギ甲子園」
決勝大会 ([https://www.youtube.com/
live/YREmfHk24Cw?si=JsRIGyouiH_
t9E8C](https://www.youtube.com/live/YREmfHk24Cw?si=JsRIGyouiH_t9E8C) 開始点:1時間30分28秒付近か
ら10分間)の動画で観ていただくこ
とができます。

全国大会では惜しくも受賞には至りま
せんでしたが、地場産業である製紙業
界を守るための努力、また亡き父の想
いを繋ぐ100年企業の“アトツギ”と
しての覚悟を語ったところ、現地応援
に駆けつけた静岡県関係者を中心に、
多くの聴衆からの共感・賛同の声を
頂戴することとなりました。

— プレゼンの内容について簡単に
ご説明いただけますか。

齊藤 周知のように静岡県富士市は
製紙産業の集積地で多くの製紙会社
が立地しており、とくにトイレットペ
ーパーの生産量では全国シェアの4割
を占めています。しかし、最近では設
備老朽化が進

行しつつあり、24時間稼働の下で不
具合が生じやすくなっています。他方
では、事業継続性の面から生産休止
も難しく容易に設備や機器の更新が
できないのが実情と言えます。した
がって、既設設備のメンテナンスが
一段と重要性を増しているわけでは
ありますが、そのメンテナンスを担
う当社をはじめとする鉄工所は製紙
産業集積地においても、この30年
ほどで企業数が6割も減少し設備
メンテナンスの対応能力が次第に低
下、さらに鉄工所では働く人が減っ
て慢性的な人材不足に陥っています。

そうした状況下でありながらも、鉄
工所は製紙会社のニーズに対し従来
スタイルで各社それぞれの対応を行
っています。鉄工所は各社で得意分野
や対応力が異なり、求められるメン
テナンスとのミスマッチが生じやす
くなっているということになります。
このため、製紙会社はメンテナンス
業務を鉄工所に全面的に任せられ
ず、操業継続に不安を抱いている
ように見えます。

大会でのプレゼンでは、そうした問
題を解消するためのビジネスモデル
として鉄工所各社の力を結集した「
設備メンテナンスプラットフォーム」
の構築を提案しました。このプラ
ットフォームに営業機能を集約し、
鉄工所各社と製紙会社との間で

メンテナンスのマッチングを図り、
プラットフォームはそれによる製紙
会社の安定操業を実現するという付
加価値で運営コストを賄うという
仕組みになります。

このプラットフォームの運営は
齋藤鉄工所が担えると思っています。
当社は製紙機械製造に特化した100
年を超える歴史があり、製紙会社
からの信頼と勤続40～50年の経
験豊富なベテランスタッフの目利
き力により両者間のマッチングを
可能とします。プラットフォーム
構築を実現するには、製紙会社を
はじめ鉄工所や行政機関などの関
係者の方々からご意見やご指導
を受けながら1つの動きへと盛り
上げていくことがポイントになり
ます。このプラットフォーム構
築は、結果的に製紙会社、鉄工所
各社、それから当社の「三方良し」
の世界を実現する構想であると思
っています。

●事業展開 問題解決で活かされる集積技術

— 貴社はマシンのコンプリートメ
ーカーという印象がありますが、今
後はメンテナンス事業の比重を高
めていく。

齊藤 もともと当社には新設マシ
ンの製造と、既存マシンのメンテ
ナンス・補修・改造の2つの事業
を展開してきました。事業形態と
しては基本的に新規マシンの



齋藤鐵工所を支えるプロ職人集団

継続的受注が理想ですが、一般に言われているように製紙産業は設備投資が旺盛となる事業環境にないのが実情で、いずれの会社も既設設備の長寿命化をメンテナンス・改造で行いながら操業されています。一方で鐵工所やプロ職人の数はどんどん減少しており、われわれのような会社は貴重な存在になってきています。

そうしたなかでメンテナンスの事業領域が今後さらに重要性を高めていくと予想され、製紙会社のニーズへ確実に応えられるよう、その仕組みを強化していく方向が考えられます。

— 静岡・富士地区では地域的連携も実現可能と思われます。

齋藤 プレゼンで提案したような構想は、そうしたことを前提としています。すぐには実現しないかもしれませんが、メンテナンス・サービスの元請け会社として他の鐵工所へ仕事を委託する方法があるとの見方や、M&Aのような形も可能性として検討できるかもしれませんが、それは現実的ではないように思われます。やはり、この地区で鐵工所全体の

活性化に繋がる方向を目指すべきです。

そうした意味で「アツギ甲子園」の参加は、自分自身が取り組みたい仕事に対する想いを明確化する機会となり、相当悩んで準備する部分もありましたが、当社のもつ強みや、これまで気づかなかったことも見えるようになってきました。また、社員の皆さんや周囲の人たちに私が思い描いている方向性を理解してもらい、また応援もしてもらう経験を得ることができました。従来の社内会議にはない効用があったと感じています。

— 審査員や多くの観客、Web配信の閲覧者へ向けて自分の考えを表明されたという意味は大きい。

齋藤 国も中小企業の事業承継問題について、後継者のいない会社に経営者人材を集めるために資金や企業紹介などにより支援策を講じていますが、後継者がいる会社については事業継承に問題はないとの認識をもたれていたように思います。しかし、実際に地方の産業を支えていくのは現実に存在する後継者の力も重要で、そうした人たちが世界の変化

のなかで取り残されているという現実もあります。そこへの支援にも焦点を当てる必要があります。各種政策が打ち出されるようになりましたが、今回の大会もその一環として開催されるようになったものと受け止めています。

— 最後に、今後の事業展開のポイントとして強調されたいことを。

齋藤 冒頭申し上げたように、当社は創業から100年以上、富士市の地場産業である製紙業界に関わってきた会社であり、「製紙会社を設備面から下支えする」というミッションは現在も脈々と引き継がれています。外部環境は変化し続けるでしょうが、今後もそのミッションを着実に果たすため、日々の業務に邁進していきたいと思えます。

当社は静岡県富士市だけでなく関西や北陸、関東地域も事業対象として実績を積んできており、設備に関するお困りごとは何なりとご相談いただける体制を整えています。次記メールアドレスにお問合わせいただければ幸いです。

E-mail : y.saito@saitoiron.co.jp